

## 第28期事業報告

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

### I 会社の現況に関する事項

#### 1. 事業の経過およびその成果

当期におけるわが国の経済は、米国のサブプライムローン問題に起因する世界的な景気後退による経済・社会環境の劇的な変化により、かつてない大不況の様相を呈してまいりました。

一方、岩手県経済においても、製造業を中心に地場企業・誘致企業ともに受注が大幅に減少、それに伴う困難な雇用確保の状況と併せ、成長鈍化が懸念されております。

このような状況の中、当社におきましても、6月・7月と二度にわたる地震の発生とその後の風評被害、前年度のJR北東北キャンペーンの反動などによる乗車人員・収入の減少、加えて史上最高値を更新した燃油価格の高騰などにより、第3四半期時点で経常損失額の大幅な下方修正が必要となりました。風評被害ならびに燃油価格は年末から落ち着いたものの、既にオンシーズンを過ぎており、上期減収分の回復までには至りませんでした。

これらの結果、当期の主な概況は次のとおりであります。

#### ■輸送実績

(単位：人／千円※税込)

項目	当期実績	前年実績	増減
乗車人員	977,439	1,036,153	-58,714
運輸収入	373,654	397,424	-23,770
(一般個札)	(193,588)	(201,426)	(-7,838)
(定期券)	(112,385)	(119,345)	(-6,960)
(地元団体)	(17,848)	(17,159)	(+689)
(観光団体)	(49,833)	(59,494)	(-9,661)

#### ■安全安定輸送への取組

- ・施設＝橋梁の要注意箇所（11箇所）を改修
- ・車両＝自動列車停止装置と制動装置改良、3両を全面改修
- ・東北鉄道協会加盟社による合同訓練（会場：IGRいわて銀河鉄道）に参加
- ・テロ、列車火災を想定した実車訓練、当社「安全を考える日」に全社員非常呼集訓練
- ・岩手県総合防災訓練（会場：大船渡市）に参加、合同訓練実施

#### ■支援の状況

- ・平成19年度経常損失補助金  
107,158千円（県・市町村各53,579千円）
- ・鉄道軌道輸送高度化事業補助金等 <橋梁と車両の老朽化改修>  
182,800千円（県・市町村各70,933千円、国40,934千円）

## ■鉄道事業営業概況

(企画列車運行)

- ・さんりくトレイン北山崎号、こたつ列車など長期にわたる企画列車の運行
- ・第6回海フェスタに合わせ、南リアス線でレトロ列車、お座敷列車運行

(利便性及び収益向上策)

- ・通勤定期を持参人式に変更
- ・JRと共同で東京地区発【岩手・三陸フリーきっぷ】発売
- ・JR、JTBの個人パッケージ商品に当社線フリーきっぷ組み込み
- ・大手旅行会社に加え、東北地区の中小旅行会社・バス会社へ駅長も参加し営業(各種イベント)

- ・恒例の三鉄健康ウォーキング、初の県外開催(八戸市種差海岸)
- ・三陸鉄道展開催、3500名を超えるご来場(沿線4市、盛岡、東京)

## ■関連事業営業概況

(物産企画)

- ・沿線特産品、地酒を中心としたラインナップでお中元、お歳暮を販売
- ・「鉄道むすめ」キャラクターの【久慈ありす】を活用した様々な商品展開
- ・「三鉄いかぼっば」など、岩手県産食材のオリジナルレトルト商品を発売

(旅行業)

- ・着地型企画＝「三鉄沿線の旅」「三鉄タクシープラン」南リアス線版新商品発売
- ・教育旅行＝中学校8校、高校2校の修学旅行、中高生海外派遣(欧州)1件を取扱
- ・一般募集型企画＝恐山参拝団、志戸平温泉大名湯治などを実施

## 2. 対処すべき課題

当社の経営方針は、

- ① 地域の生活路線として、住民の足を確保する
- ② 観光路線として様々な所から三陸においていただき、地域観光振興に寄与する

この2本の柱を中心に、国・県・市町村等から様々な支援をいただきながら、地域になくてはならない鉄道を目指すものであります。

しかしながら、全国的な人口減少や少子高齢化の著しい進行により、一部の大都市圏沿線を除いて鉄道利用者は減少し、業界を取り巻く環境は依然厳しさを増しております。

当社は、安全安定輸送・利便性確保を軸に投資計画・経費構造を抜本的に見直し、経営環境の現状を踏まえた検討を行い、平成25年度を最終年度とする5ヶ年の『改定経営改善計画』を平成20年12月に策定したところであります。

計画目標達成に向け、全社員の総合力を結集させることはもとより、県・市町村とともに協議を重ねながら、施策に着手してまいります。

また企業活動においては、顧客や従業員、同業他社、地域社会といった、様々な関係者との調和を重視し、岩手ブランドとしての企業価値の向上に全力を尽くし、鋭意努力して参ります。

### 3. 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は182,800千円であり、その内容は次のとおりです。

- ・鉄道輸送高度化事業 122,800千円（橋梁改修、自動列車停止装置・制動装置）
- ・車両リニューアル 60,000千円（全面改修3両）

### 4. 資金調達の状況

該当する事項はありません。

### 5. 直前3事業年度の財産および損益の状況

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度
	(第25期)	(第26期)	(第27期)	(第28期) ※当事業年度
営業収益	431,932千円	435,305千円	446,631千円	413,711千円
当期純利益	11,673千円	△3,471千円	8,534千円	△39,794千円
1株当り当期純利益	389円	△115円	284円	△1,326円
総資産合計	552,408千円	432,600千円	438,142千円	505,610千円

### 6. 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- ・鉄道事業法による第1種鉄道事業およびこれに付帯関連する事業
- ・旅行業法による第2種旅行業
- ・物品販売業

### 7. 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	盛岡市内丸10番1号
事業所 ・宮古本社	宮古市栄町4番地
宮古駅	同上
・北リアス線運行本部	久慈市川崎町10番20号
久慈駅	久慈市中央3丁目38番2号
・南リアス線運行本部	大船渡市盛町馬場4番4号
釜石駅	釜石市鈴子町22番5号
盛駅	大船渡市盛町字東町裏16番

※市町村等への業務委託駅 陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・鳥越駅  
小本駅・田老駅・三陸駅・綾里駅

## 8. 従業員の状況

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	63名	43.6才	19年5ヶ月
女 子	2名	40.0才	0年9ヶ月
計	65名	43.5才	18年11ヶ月

(注) 上記には、J R 東日本からの出向従業員2名を含んでおります。  
この外に、臨時雇用従業員が19名おります。

## 9. 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県および岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.6%(22,600株)の出資を受けております。

※ 岩手県48%(14,400株)

沿線市町村19.2%(5,700株) 沿線外市町村8.4%(2,500株)

当社は、岩手県知事が会長に就任しております。

## II 株式に関する事項

1. 会社が発行する株式の総数 100,000株

2. 発行済株式の総数 30,000株

3. 当事業年度末の株主数 48名

### 4. 主な株主の状況

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
岩 手 県	14,400株	48.0%
宮 古 市	1,250株	4.2%
(株) 岩 手 銀 行	1,200株	4.0%
大 船 渡 市	1,150株	3.8%
新 日 本 製 鐵 (株)	1,000株	3.3%
東 北 電 力 (株)	1,000株	3.3%
一 関 市	700株	2.3%
久 慈 市	650株	2.2%
釜 石 市	650株	2.2%

### Ⅲ 会社役員に関する事項

#### 1. 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増拓也	岩手県知事
取締役副会長	熊坂義裕	宮古市長
取締役副会長	甘竹勝郎	大船渡市長
取締役副会長	山内隆文	久慈市長
取締役副会長	野田武則	釜石市長
代表取締役社長	山口和彦	
取締役	谷藤裕明	盛岡市長
取締役	伊達勝身	岩泉町長
取締役	上机莞治	田野畑村長
取締役	深渡宏	普代村長
取締役	小田祐士	野田村長
取締役	上野晋吾	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	宮舘壽喜	岩手県副知事
監査役	永野勝美	(株)岩手銀行 特別常任相談役
監査役	佐藤安紀	(株)北日本銀行 取締役頭取

(注) 取締役 藤尾善一氏は平成21年3月31日退任いたしました。

#### 2. 取締役または監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 4,800千円

監査役の報酬はありません。

### Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。